

# 京都教区時報

カトリック京都司教区  
 広報委員会  
 京都市中京区  
 河原町通三条上る  
 TEL 075-211-3025  
 FAX 075-211-3041  
 honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

2026年 司教年頭書簡を受けて



©Vatican Media

## 第5回 見えない神の働きへの信頼

今年の四旬節は終わってしまいましたが、四旬節に教会は、私たちに断食、祈り、愛の業という三つの実践を勧めています。これらは単なる宗教的行為ではなく、欲望を整え、神と人との関係を深め、具体的な愛をもって生きるための道であり、キリスト者の使命そのものです。

しかし、なぜ私たちはこれらを実践することに困難を覚えるのでしょうか。それは、日々の忙しさや生活の重圧、あるいは試練の中で、これらの実践がもたらす実りをすぐに実感できないからでしょう。私たちが難しさを感じる根本的な理由は、神が私たちのうちに働いておられる目に見えない御業を、私たちが十分に信じていないことにあるのではないのでしょうか。たとえば断食において、私たちは空腹や不快感ばかりに目を向けがちです。しかし、それは、身体を整えるだけでなく、欲望を制御する力を養い、自己規律を育み、神や他者との関係をより良いものへと導く霊的な恵みをもたらします。

私自身、京都教区で奉仕した3年間を振り返ると、目に見えない神の働きを信じていることの裏りを、はつきりと体験してきました。内気で引っ込み思案で、数多くの限界を抱えた人間であった私

は、3年前、見知らぬ教区に派遣され、修道会の兄弟たちの庇護を離れ、自立して歩む決断をしました。最大の困難は日本語でした。今日に至るまで、私の日本語は幼稚園児にも及ばないほどです。それでも私が携えていた唯一のものは、「神が私を遣わされるならば、必ず共に歩み、支えてくださる」という信頼でありました。

事実、神は、司教様、司祭方、そして多くの信徒の皆様の愛に満ちた手を通して、静かに、しかし確かに私のうちに働いてくださいました。肉眼では見えない数多くの犠牲と祈り、そして温かな思いやりが、私に使命を果たすための力と情熱を与えてくれました。その恵みの大きさは、私自身でさえ信じがたいほどです。信徒の皆様のお祈りに支えられながら、私は願います。どうか神が私のうちに行っておられる、この目に見えない御業への信頼を、これからも失うことがありませんように。そしてその信仰が生き生きとしたものとなり、神と兄弟姉妹のために、豊かな実りを結ぶことが出来ますように。



ベトナム共同体司教ミサ 伏見教会にて

洛東ブロック担当司祭  
 クラレチアン宣教会

グエン・バン・ナン

6  
 2026

## 2025年度 カトリック京都司教区本部 決算報告

平素より、京都司教区のために、ご支援ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。  
さて、2025年度（1月1日から12月31日まで）の、京都司教区の宗教法人本部会計の決算について、主な点をご報告させていただきます。

### 教区本部会計について

当年度の決算は収益計729,146千円、費用計は474,312千円でした。

当期税抜前正味財産増減額はプラス254,834千円です。但し法人税額が75,224千円です。税抜後の正味財産増減額はプラス179,610千円となります。

#### 1. 経常収益について

- ①小教区からの納付金（A）～（D）は総額で99,310千円でした。前年度より3,391千円の増収です。
- ②収益事業収入は、河原町教会敷地内ホテル再建設に係る土地借地権者からの地代等や小教区の駐車場収益等で407,534千円でした。

#### 2. 経常費用について

- ①神学生養成費は通常の負担の他、神学生2名の経費を計上しております。
- ②人件費は前年度に比べ613千円の増額です。司教区職員（衣笠墓苑担当）の引継ぎのため一時的に2名分の経費がかかりました。
- ③維持管理費が前年度に比べ174,786千円減額、事務管理費が前年度に比べ20,818千円減額です。昨年度はどちらも司教区新本部事務局の建築・移転に経費がかかりましたが、本年度は大幅に減額いたしました。今後はほぼこの辺りの額で推移すると思われませんが、会館の維持管理に係る経費は今後もかかります。

### 終わりに

2025年度の収益は皆様のおかげで黒字となりました。しかし2026年度から2027年度にかけて、新司教館建設等で大きな支出があります。

世界の情勢を眺めるとき、わたしたちは単に教区の組織、体制護持という内向きな教会のあり方に留まっていたのではないと強く感じさせられます。いのちの福音に仕え、神の国の福音宣教の使命に絶えまなく立ち返っていきたく希望しております。そのために教区において適正な運営がなされますように、皆様のお祈り、ご意見、ご協力をよろしくお願いいたします。

2026年6月1日  
カトリック京都司教区  
本部事務局 北村善朗

## 2025年度 カトリック京都司教区本部 決算報告書

自2025年1月1日 至2025年12月31日

(単位：千円)

科 目	実 績	科 目	実 績
<b>I 経常費用</b>	<b>367,675</b>	<b>I 経常収益</b>	<b>198,381</b>
<b>1 福音宣教活動費</b>	<b>51,950</b>	<b>1 司牧祭儀収入</b>	<b>8,247</b>
祭儀費	801	司教司牧収入	1,638
教育養成費	813	司祭司牧収入	6,609
神学生養成費	9,887	<b>2 納付金収入</b>	<b>99,310</b>
諸委員会活動費	2,868	小教区納付金 (A)	27,760
教区事業活動費	33,360	小教区納付金 (B)	60,786
諸活動団体補助金	552	小教区納付金 (C)	9,732
済州交流費	1,591	小教区納付金 (D)	1,032
国際交流費	0	<b>3 福音宣教協力金</b>	<b>916</b>
会議費	1,951	<b>4 特定献金収入</b>	<b>7,606</b>
図書費	21	<b>5 福音宣教企画室収入</b>	<b>103</b>
諸会費	106	<b>6 墓苑勘定収入</b>	<b>10,602</b>
<b>2 寄付金支出</b>	<b>1,550</b>	墓苑使用料	2,880
<b>3 特定献金支出</b>	<b>7,603</b>	墓苑祭儀収入	7,583
<b>4 管理費</b>	<b>157,198</b>	(神の園) 使用料収入等	139
人件費	101,850	<b>7 特別勘定収入</b>	<b>10,744</b>
維持管理費	27,316	一粒会	9,475
事務管理費	28,032	済州基金	493
<b>5 福音宣教企画室支出</b>	<b>266</b>	アジア基金	477
<b>6 墓苑勘定支出</b>	<b>3,563</b>	国際協力基金	299
墓苑管理・整備費	3,485	<b>8 その他の収入</b>	<b>60,853</b>
(神の園) 管理祭儀費	78	建設分担金収入	31,567
<b>7 減価償却費</b>	<b>145,545</b>	一般寄付金収入	20,802
		雑収入	3,032
		受取利息 (預金)	5,452
<b>II 経常外費用</b>	<b>9,945</b>	<b>II 経常外収益</b>	<b>123,231</b>
固定資産売却損	1,478	固定資産売却益	2,419
固定資産除去損	8,467	墓苑積立金取崩益	0
特別積立金繰越し	0	投資有価証券償還益	49,174
投資有価証券償還損	0	受取利息 (投資)	67,994
雑損失	0	過年度修正益	3,644
<b>III その他費用</b>	<b>96,692</b>	<b>III その他収益</b>	<b>407,534</b>
収益事業費用	96,692	収益事業収入	407,534
福音宣教基金繰入	0		
<b>費用総合計</b>	<b>474,312</b>	<b>収益総合計</b>	<b>729,146</b>
税抜前当期正味財産増減額	254,834		
法人税額	75,224		
税抜後当期正味財産増減額	179,610		
<b>合 計</b>	<b>729,146</b>	<b>合 計</b>	<b>729,146</b>



広島平和記念資料館前にて

## 京都教区中高生 広島平和巡礼 「私たちがつなぐ平和」



3月20日から22日にかけて、「私たちがつなぐ平和」をテーマに、第38回中生広島平和巡礼を開催しました。

例年とは違う時期・学年層で行われましたが、11名の参加者と共に慰霊碑巡りや資料館見学、分かち合いを通して平和について真剣に考え、神様とのつながりを学ぶことができました。

以下、参加者(一部)の感想です。全員が3日間の巡礼で考え、これからつなげていきたいことを書きました。ぜひ、お読みください。

今回の広島平和巡礼を開催するにあたりご支援いただきました全ての皆様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

2026年度中生広島平和巡礼総括  
池田虹子(唐崎教会)

### 戦争のこわさ

「巡礼」に行くのは、ぼくは初めてでした。

最初は広島原爆のこわさを学校で行ってわかってるつもりだったけど、広島原爆被爆者の話をきいたり写真で見たりすると、最初の印象よりも戦争のこわさや、原爆のことがよく伝わりました。

そして話を聞いて、被爆者の人たちは右半身がやけどしたり、原爆で生きのこっても黒い雨で病気になる、体がどんなボロボロになったという話を聞いて、ぼくは今の時代に生まれてよかったとすごく思いました。

そしてぼくは戦争と友達のケンカはにていると思いました。どうしてかというところ、友達もぼくも両方傷ついてしまうからです。だからそうなる前に、分かち合いの時にやった「神様がいると思った時」という話で、その時に心に神様を入れて話すことが大事だと思いました。

だからぼくはこれからも今に生まれたのを幸せに思って、神様を心に入れて生きていこうと思いました。(山科教会)

### 「平和」について考える

「平和」。この言葉にはどんな意味があるのだろうか。どんな状況で「平和」といえるのだろうか。本当の意味で「平和だな」といえる時は来るのだろうか。そんな疑問を抱きながらも、僕は人生において必要不可欠なものを学べた。

この広島平和巡礼では初めに言った通り「平和」について、特に考えさせられた。今までの僕が考えていた平和は抽象的で、世界平和や、平和な手段で解決などの規模の大きいイメージがあり、自分の力でどうこうできるようなものではないかと思っていた。実際、二日目の平和学習では国同士の戦争の結果、一般人が巻き込まれ、ひどいけがや後遺症が残ったり、亡くなったりした事実を知った。資料館では「怒りも悲しみの涙も涸れ果ててしまいました」という被爆者の証言や

「僕がこんな火傷をしているのでお母さんがかわいそうだ」という言葉を目にして、戦争の悲惨さや、逆に悲惨すぎる状況だからこそ家族が心配になってしまふということが心に残った。やはり、国同士の中で自分たちでは何もできないのかと思った。だが、「平和」という言葉の意味や、どこに平和があるものなのかを追求していくと、平和は身近な所にあるものだと思った。今の僕が導いた「平和」の答えは、平和は人の心の中にあり、その平和や心の中の愛を人に広げていくことだと思った。これを世界中の人ができた時、世界平和といえるのだろうか。

こんな学びがありつつも、この合宿では楽しいことがたくさんあった。まずは京都駅。リーダーが笑顔で話しかけてくれたことがとてもうれしかった。次は新幹線とレク。遊びをたくさんして、どんな距離が縮まった。お風呂や寝る部屋でも男子の仲が深まった。そして、特に良かったことはリーダーとの仲がとて深まったこと。前回参加した侍者合宿とは別の楽しさを味わうことができた。

今回の合宿で考えた「平和」の意味はまだ正解にはたどり着けていないと思う。もしかすると人生をかけて考えることであり、考えても平和を体験することはできないかもしれない。それでも「小さな平和」や「喜び」を感じることで

きる人間になりたいと思う。それを現実させるためには、今回味わったようにいろんな人と触れ合い、楽しく過ごし、イエス様と常につながっていることが必要だと思う。体験したことをこれからの人生に生かしていきたい。(田辺教会)

### 平和の大切さ

この2日間で、みんなが平和を思うことの大切さを理解することができました。

戦争があり、多くの人の命がうばわれ、同じ人間なのに広島県の人というだけで結婚をいやがられたり、差別をうけたり仕事をもらえなかったりすることがあり、戦争で被害をうけた人にとってどれだけ悲しく、しんどいことかを実感しました。また、平和資料館を見てまわって絵の解説で、「体の中が火のたまりのようになっていたから水がほしかったのです」と書いてあったのが心に残っています。体があついなどではなく、「火のたまり」と書いてあることがほんとうにあつくて苦しかったんだらうと分かった気がします。

大塚司教様から「みんなと一緒にすごせた事が幸せ」という話がありました。私は慰霊碑で見た「平和とは明日がくること」という展示と司教様のお話が関連していると思いました。この言葉はただ平和の意味を表しているのではなくて、自

分たちはあたりまえのように明日がくるけど、被爆者は一瞬にしてなくなってしまうことを表していると思います。今こうしてみんなと笑っていることは幸せなことだから、この平和を大切にしていきたいです。あたりまえのことができないのは神様がいてくださってできることだから、神様がいてくださることに感謝して日々すごしていきたいです。(西院教会)



宿泊させていただいたカトリック祇園教会にて  
ミサ後に撮影

主は侍者たちとともに！  
私たちとともに！  
〜京都教区の宝物！  
私たちの信仰の未来！〜

信仰教育委員会 担当司祭 イウォンギョ

主イエス・キリストの恵みのなかで、愛すべき各小教区の子どもたちと共に、「京都教区侍者合宿」に行つてまいりました。(参加者15名/西院教会/3月30日〜4月1日/2泊3日)

京都教区へ派遣されてから2年が経ち、私にとって初めての参加となった侍者合宿。期待と少しばかりの緊張が入り混じるなか、受付で子どもたちを待っていた私の心を温かく溶かしてくれたのは、子どもたちが向けてくれた輝くような笑顔でした。初めて訪れる教会をまるで自分の家のように感じ、初めて会う神父様やシスター、リーダーを本当の家族のように慕って明るく挨拶をする子どもたち。その姿を見つめながら、この侍者合宿が単なる恒例行事ではなく、「侍者たちを慈しまれる神様が、子どもたちのために自ら備え、招いてくださった大切な時間」なのだということを、改めて深く実感しました。

2泊3日の侍者合宿の旅路は、「主はあなたとともに」というテーマについての司教様のお話から始まりました。「侍者はイエス様の友」(ヨハネ15・15参照)

という内容で、侍者たちに向けられた神様のみこころをお伝えくださった司教様のお話は、参加者の子どもたちだけでなく、スタッフ



京都鉄道博物館

フ全員の心にも大きな響きを与えてくれました。

今回のプログラムの中には、鉄道博物館へ見学に行く時間もありました。悪天候の中、混み合うバスに揺られ、車窓の外には雨が降り続いていましたが、本当に不思議なことに、バスを待っている時やバスを降りて移動する時には雨が止むという「恵み」を体験しました。そして、好奇心と喜びに満ちた表情で、あっちこっちを休むことなく元気に歩き回る子どもたちの姿を見ながら、やはり司牧者には何よりもまず「体力」が必要だという事実を改めて実感しました。鉄道博物館の見学を終え、カルメル修道院へ向かう坂道を登る時にも、激しく降っていた雨が止むという体験をしました。本当に神様がわたしたちを見守ってくださっているのだと感じ、胸が熱くなりました。カルメル修道院で祭壇に聖体を安置

し(聖体顕示)、シスター方と子どもたちが心を合わせて捧げた夕の祈りは、今回の侍者合宿において、イエス様と一つになった霊的な頂点ともいえる時間でした。静寂の中で聖体と祈りに心を合わせ、子どもたちの真剣な眼差しからは、イエス様を慕う彼らの純粋な想いを感じる事ができ、深い感動に包まれたひとときとなりました。

侍者合宿の最後のプログラムでありハイライトは、河原町教会での司教様とともに捧げる聖香油のミサでした。侍者合宿期間中、ともに一生懸命汗を流しながら侍者練習をした子どもたちは、ときめきに満ちた心で聖香油のミサで奉仕しました。司教様、神父様、侍者合宿のスタッフ、侍者たち皆が一つになってともに捧げた聖香油のミサの喜びは、私が侍者合宿を通していただいた神様からの賜物、そして侍者たちからも

らったプレゼントだと思っ



聖香油ミサ

2026

年度京都教

区侍者合

宿! 愛と喜び、そして希望の中で、皆が一



聖香油ミサの後の記念撮影

つになれる時間を過ごせるよう導いてくださった神様に感謝を捧げます。  
そして、目に見えないところで子どもたちのために多大なるお力添えをくださり、子どもたちに一生の宝物となる思い出を作ってくくださった司教様、神父様とシスター、京都教区のスタッフの方々、子どもたちをそばで守ってくれた青年リーダーたち、また、良い場所を提供してくくださった西院教会と衣笠教会のみならず、本当にも改めて心より感謝申し上げます。

### 参加した子どもたちの感想（一部抜粋）

- 初めて聖香油ミサを見たとき、神父様がたたくさんいて圧倒されました。

- 侍者の練習で舟の持ち方を知らなかったけど、リーダーに聞いたら優しく教えてくれました。侍者合宿ではわからないことは聞いたら教えてくれると知りました。

- これからも教会に戻って侍者をいっぱいやって、来年の侍者合宿に参加して、いっぱい友達をつくりたいです。

- 侍者合宿に参加して、侍者のこと、教会のことをいっぱい学びました。ミサの道具の名前など知らないことを知りました。楽しかったのは、鉄道博物館へ行ったことです。

- 一日目、司教様も一緒にフルーツバスケットをして思い出になったのうれしかったです。また、みんなで鉄道博物館へ行ってお弁当を食べたり、銭湯に行ったりして侍者練習をして楽しかったです。

- ミサの本番の時、まちがえたらどうしようかとドキドキしましたが、まちがえずにできて、うれしかったです。

- カルメル修道院に行って、シスターたちの歌声がきれいだった。

- 侍者とは、神さまにお仕えし、神父様を助ける重要な役目だとわかりました。

- 侍者は、普通に立っているだけかと思っていたが、祭壇のそばで神さまと教会に親しく仕える人だと司教様から聞いて、びっくりした。

- 侍者合宿で侍者のやり方がわかったので、もっとできるようにになりたいです。

### リーダーの感想（一部抜粋）

- 初めてリーダーとして、6年ぶりに侍者合宿に参加した。リーダーとしての立場は、簡単ではなく、大きな責任を感じた。合宿を通して、私自身、侍者のことをもっと深く知ることができた。

- 以前、参加者として侍者合宿を経験しました。今回の侍者合宿と同じく、侍者練習、カルメル修道院での祈り、聖香油ミサなど今でも記憶に残っています。聖香油ミサでは、子どもたちの緊張をやわらげ、自信をもって侍者をしてもらうには、リーダーがわかりやすく正確に指示を出さなければならぬと思います。

## お知らせ

## 司 教

## 大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



## 教 区

大塚喜直司教霊名記念日ミサ  
教区創立90周年準備開始ミサ

6月24日㊦ 10:30 河原町教会

## 京都・チェジュ教区交流ミサ

6月28日㊦ 10:30 河原町教会

■教区時報8月号の原稿締切日は6月21日㊦です。お知らせに掲載したい情報は教区本部事務局広報委員会までご連絡ください。

honbu@kyoto.catholic.jp  
075-211-3025

## 諸 団 体

## 京都カトリック混声合唱団

6月14日㊦ 14:00 聖歌練習

6月27日㊦ 17:30 練習後ミサ奉仕

場 所：河原町教会聖堂 団員募集中

問合せ：075-951-4283 則武 隆

## コーロ・チェレステ（女声コーラス）

練 習：6月11日㊦ 10:00

6月25日㊦ 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊 新会員募集中

問合せ：駒井和子 075-561-5971

## 聴覚障がい者の会・京都グループ

## 手話ミサと黙想会

日 時：6月30日㊦ 10:30 受付

11:00 手話ミサ（柳本昭神父）

13:00 講話（石井望神父）、黙想

15:00 解散予定

場 所：河原町教会地下小聖堂

ヴィリオンホール

手話能力とは関係なく、どなたでもご参加いただけます。

問合せ：鎌田 修 090-1967-5636

kamadaosamu@gmail.com

## 心のともしび

ラジオ番組案内

（全国34局で放送）

6月主テーマ「多様性」

KBS京都 ㊦～㊤ 朝5:55 ㊦ 朝5:15

ラジオ関西 ㊦～㊤ 朝5:00 ㊦ 朝6:05

毎日放送 ㊦～㊤ 朝5:45 ㊦ 朝4:55

## カトリック京都働く人の家

## 読書会・遠藤周作「イエスの生涯」

日 時：6月14日㊦ 九条教会9時ミサ後

場 所：九条教会内働く人の家

対象者：どなたでも

問合せ：瀧野正三郎 090-8207-1831



皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、「点訳ネット・レジナ」笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送ります。  
Tel・Fax/072-722-0271



## 中学生会リーダー募集！

中学生会とは、春と冬の年2回開催される、京都教区の中学生のための合宿です。月に数回、京都カトリック青年センターに集まり、レクリエーションや祈り、分かち合いなどのプログラムを、青年たちがミーティングを重ねながら準備・企画しています。そんな中学生会を、私たちと一緒に作ってみませんか？

興味のある方は、お気軽に下記の中学生会メールアドレスまでお問い合わせください。新しい仲間との出会いを楽しみにしています！

中学生会メール:kyoto.chugakuseikai@gmail.com

唐崎教会・池田瑠智亜

